



## 平成 18 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18 年 1 月 26 日

上場会社名 井村屋製菓株式会社 (コード番号：2209 東証・名証第2部)  
 (URL <http://www.imuraya.co.jp/>)  
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 浅田 剛夫  
 問合せ先責任者 役職名 執行役員財務部長 氏名 竹田 節郎 TEL：(059) 234 - 2147

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
 (内容)  
 引当金の計上基準等は一部簡便的な方法を採用しております。  
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 連結(除外) 1社

### 2. 平成 18 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日)

#### (1) 経営成績(連結)の進捗状況 (百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	26,279	0.4	639	1.3	722	3.4	481	31.9
17年3月期第3四半期	26,170	2.8	630	347.3	698	373.3	365	-
(参考)17年3月期	34,132	3.8	966	-	1,052	-	486	-

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第3四半期	19 06	-
17年3月期第3四半期	14 42	-
(参考)17年3月期	18 66	-

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

#### [ 経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等 ]

第3四半期(10月～12月)は、当社グループにおきましては年間を通して売上・利益ともに最もウエイトの高い期間であり、最大の成果をあげるべく積極的に営業活動を展開いたしました。10月・11月が暖冬の影響もあり厳しい状況にありましたが、12月に入り記録的な寒波の後押しもあって、冬場の主力商品であります「肉まん・あんまん」類や「カップするこ」・「レトルトぜんざい」等ホットデザート類が好調に推移しました。

当第3四半期(平成17年10月1日から平成17年12月31日まで)の事業別状況は、菓子は「カステラ」が堅調に推移し(前年同期間比1.8%増)、今期増設いたしましたカステララインも9月から順調に稼働しております。食品では、引き続き「お赤飯の素」が好評を得(前年同期間比44.6%増)、ホットデザート類(前年同期間比4.8%増)や「家庭用袋入りまんとう」(前年同期間比11.6%)が伸ばいたしました。なお、当社連結子会社であります日本フード㈱におきましては、受託加工商品でありますパウチ商品の伸長に伴い、ラインの増強を決定し、平成18年4月稼働を目指して着工いたしました。デイリーチルドは、ブームである寒天を原料とした「やわらかかん天」や「豆乳」・「チルドまん」が伸ばしデイリーチルド全体で7.9%増となりました。

アイスクリーム類は市場の拡大策に加え10月・11月の天候要因も相俟って前年同期間比36.0%増と続伸しました。「あずきパー」につきましては大変ご好評を得、当期、夏の最需要期に流通顧客並びに消費者の皆さまのご要望に一部商品供給においてお応えできなかった経緯からアイスクリーム生産ラインの増設を決定

し、平成18年6月稼働を目指して準備を進めております。加温商品の「肉まん・あんまん」は12月に入って天候の追い風もあり、10・11月の遅れを取り戻して前年同期間比4.0%増となりました。加温商品はシーズン売上に占める1月～3月の販売ウエイトが年々増加してきており、春先に向けて対策商品を投入し売り場の活性化を図ってまいります。

フードサービス事業は、前年同期間より戦略的に4店舗（立川店、千葉そごう店、吉祥寺店、お台場店）の閉店を行ったことによる売上の減少や、今期間の最大の催事でありますクリスマス商戦も大きな売上増にはつながらず前年同期間比は26.6%減となりました。

調味料事業は、引き続き健康機能性食材が伸長し前年同期間比7.7%増となりました。

以上の結果、第3四半期（平成17年4月1日～平成17年12月31日まで）の連結売上高は、牛乳事業の撤退による13億47百万円（当期売上に占める率5.1%）の減少はありましたが、262億79百万円となり前年同期比0.4%増となりました。

利益面におきましては、上述しましたフードサービスカンパニーの閉店やチルドフーズカンパニーの業態変革が、改革途上の厳しさもあり成果を出すところまでには至っておりませんが、一般管理費の低減や、主要原料であります小豆価格の安定、連結子会社日本フード(株)の利益貢献があり連結経常利益は7億22百万円（前年同期比3.4%増）、連結当期純利益は4億81百万円（前年同期比31.9%増）となりました。

また、井村屋製菓(株)単体におきます第3四半期（平成17年4月1日から平成17年12月31日）の売上高は245億56百万円（前年同期比7.6%増）、経常利益は4億38百万円（前年同期比17.2%増）、当期純利益は3億12百万円（前年同期比49.3%増）となりました。

1～3月の第4四半期につきましては、春・夏物商品の市場拡大を最大のポイントとして活動し、加えて第70期（平成18年4月1日からの新年度）への助走期間と捉え、新たに3つの基本方針を定め経営計画の策定、第二次業務構造改革に引き続く第三次業務構造改革への準備を進めてまいります。その基本方針は  
自発力の発揮・・・自らが考え、提案し、率先し、実行する。

徹底力の強化・・・決めたことの徹底、結果を確認するまで実行する粘り強い力の発揮。

つなぐ心を持つ・・・内外でのつながりの良い会社、システム力のある会社を目指す。

であります。

なお、設備投資の進捗は2月に第二次物流システムが本稼働、低層賃貸住宅も1月末に竣工し2月から入居を開始します。今期計画をしております設備投資は計画通り進行しております。

## (2)財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第3四半期	26,190	11,979	45.7	474 16
17年3月期第3四半期	25,190	11,658	46.3	460 66
(参考)17年3月期	22,292	11,778	52.8	466 14

### [ 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等 ]

第3四半期末における総資産が期末と比較して増加するのは、年間を通じ第3四半期が当社の最盛時期にあたり、受取手形及び売掛金、たな卸資産等残高が増加することによっております。

### 3.平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

当初予想（平成17年5月13日公表）と変更はありません。

業績予想につきましては、決算日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上

1.(要約)四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前第3四半期末 (平成16.12.31)		当第3四半期末 (平成17.12.31)		増減 金 額	(参考) 前連結会計年度末 (平成17.3.31)	
	金 額	構成比	金 額	構成比		金 額	構成比
<b>(資産の部)</b>							
<b>流動資産</b>							
現金及び預金	822		821		1	1,506	
受取手形及び売掛金	8,096		8,363		267	5,080	
たな卸資産	2,481		2,390		91	2,259	
繰延税金資産	399		534		135	345	
その他の流動資産	256		215		41	200	
貸倒引当金	3		0		3	1	
流動資産合計	12,051	47.8	12,324	47.1	273	9,391	42.1
<b>固定資産</b>							
有形固定資産	10,009		10,848		839	9,924	
無形固定資産	26		43		17	25	
投資その他の資産	3,569		3,413		156	3,414	
貸倒引当金	466		439		27	463	
固定資産合計	13,139	52.2	13,865	52.9	726	12,900	57.9
資産合計	25,190	100.0	26,190	100.0	1,000	22,292	100.0
<b>(負債の部)</b>							
<b>流動負債</b>							
支払手形及び買掛金	5,324		4,514		810	3,576	
短期借入金	1,908		2,756		848	574	
賞与引当金	268		272		4	505	
未払金	2,611		3,034		423	2,062	
その他の流動負債	851		949		98	1,212	
流動負債合計	10,965	43.5	11,526	44.0	561	7,931	35.6
<b>固定負債</b>							
長期借入金	635		500		135	629	
退職給付引当金	747		774		27	756	
役員退職慰労引当金	117		139		22	168	
再評価に係る繰延税金負債	977		1,234		257	977	
その他の固定負債	6		11		5	10	
固定負債合計	2,485	9.9	2,659	10.2	174	2,542	11.4
負債合計	13,450	53.4	14,186	54.2	736	10,474	47.0
(少数株主持分)							
少数株主持分	81	0.3	24	0.1	57	38	0.2
<b>(資本の部)</b>							
資本金	2,253	8.9	2,253	8.6	0	2,253	10.1
資本剰余金	2,295	9.1	2,321	8.8	26	2,296	10.3
利益剰余金	5,493	21.8	5,863	22.4	370	5,614	25.2
土地再評価差額金	1,460	5.8	1,203	4.6	257	1,460	6.5
その他有価証券評価差額金	305	1.2	511	2.0	206	344	1.5
為替換算調整勘定	5	0.0	1	0.0	4	9	0.0
自己株式	144	0.5	173	0.7	29	181	0.8
資本合計	11,658	46.3	11,979	45.7	321	11,778	52.8
負債、少数株主持分及び資本合計	25,190	100.0	26,190	100.0	1,000	22,292	100.0

2.(要約)四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前第3四半期 〔自平成16.4.1〕 〔至平成16.12.31〕		当第3四半期 〔自平成17.4.1〕 〔至平成17.12.31〕		増減 金 額	(参考) 前連結会計年度 〔自平成16.4.1〕 〔至平成17.3.31〕	
	金 額	百分比	金 額	百分比		金 額	百分比
	売上高	26,170	100.0	26,279		100.0	109
売上原価	17,345	66.3	17,192	65.4	153	22,455	65.8
売上総利益	8,824	33.7	9,086	34.6	262	11,676	34.2
販売費及び一般管理費	8,194	31.3	8,447	32.2	253	10,710	31.4
営業利益	630	2.4	639	2.4	9	966	2.8
営業外収益	128	0.5	152	0.6	24	183	0.5
受取利息	1		1		0	1	
受取配当金	17		18		1	18	
持分法による投資利益	7		5		2	12	
その他の収益	102		127		25	150	
営業外費用	61	0.2	69	0.3	8	97	0.2
支払利息	23		18		5	28	
その他の費用	37		51		14	68	
経常利益	698	2.7	722	2.7	24	1,052	3.1
特別利益	62	0.2	286	1.1	224	115	0.3
投資有価証券売却益	20		200		180	47	
その他の利益	41		86		45	68	
特別損失	121	0.5	204	0.8	83	305	0.9
固定資産売却損除却損	75		197		122	137	
その他の損失	45		7		38	168	
税金等調整前四半期(当期)純利益	639	2.4	803	3.0	164	861	2.5
税金費用	276	1.1	316	1.2	40	398	1.1
少数株主利益又は少数株主損失( )	1	0.0	5	0.0	6	23	0.0
四半期(当期)純利益	365	1.3	481	1.8	116	486	1.4